

## 鳥羽市地域公共交通会議会議録

会議の名称	令和2年度第1回鳥羽市地域公共交通会議全体会
開催日時	令和2年12月4日(金) 13:30~15:30
開催場所	鳥羽市役所西庁舎 3階 中会議室
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. あいさつ</li> <li>2. 新委員の紹介</li> <li>3. 報告事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 持続可能で新しい観光地づくり事業(県事業)について【資料1】</li> <li>(2) 危険なバス停について【資料2】</li> </ol> </li> <li>4. 協議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 鳥羽市地域公共交通計画(素案)について【資料3】</li> <li>(2) 事業評価について【資料4-1、4-2、4-3、4-4】</li> <li>(3) 事業評価について【資料5】</li> </ol> </li> <li>5. その他             <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス停名の変更(鳥羽消防署前⇒落口)</li> <li>・代替船舶建造について</li> <li>・公共交通を利用した高校生発想の旅行企画について</li> </ul> </li> </ol>
会議資料	事項書・席次表・委員名簿 <b>【資料1】</b> 生活交通確保維持改善計画の変更(案)
公開・非公開の別	公
傍聴人の数	3人
出席委員	立花会長、加藤委員、三村委員、中垣内委員、小崎委員、濱崎委員、中村委員、角屋委員、山下委員、鈴木委員、松林委員、宮崎委員代理 安部氏、山路委員、天野委員代理 中根氏、今井委員、岩本委員、片岡委員、豊田委員、下田委員代理 大津氏、清水委員、山下委員、西川委員、濱口委員、小寺委員、田畑委員、福田委員
オブザーバー	なし
欠席委員	伊藤委員、木下委員、高木委員、今井委員
事務局	定期船課 世古、角谷
<p><b>1. あいさつ</b></p> <p>○事務局長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開会</li> <li>・配布資料の確認</li> </ul> <p>○会長挨拶</p> <p>コロナ禍ではありますが、令和2年度第1回鳥羽市地域公共交通会議全体会にご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>本日の会議の主な内容は、平成29年度に策定しました「鳥羽市公共交通網形成計画」の計画期間が令和2年度で終了することに伴い、新たに策定しております「鳥羽市地域公共交通計画(案)」及び、中部運輸局へ提出します令和2年度 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について、ご審議を賜りたいと存じますので、よろしくお願いたします。</p> <p><b>2. 新委員の紹介</b></p> <p>○事務局長</p> <p>鳥羽市地域公共交通計画を策定するにあたり、広く意見等をいただくため、新たに鉄道事業者様から推薦を頂き本市の公共交通会議委員になることを承認していただいた2名紹介を致します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東海旅客鉄道(株)豊田委員 挨拶</li> <li>・近畿日本鉄道(株)片岡委員 挨拶</li> </ul> <p>○事務局長</p> <p>2名の任期は令和2年12月1日から令和4年3月31日までとなります。また、同会議の中に設置し</p>	

ていますバス幹事会の委員も兼ねていただきます。

### 3. 報告事項

#### (1) 持続可能で新しい観光地づくり事業（県事業）について

##### ○実施事業者

資料1について説明。夜もセントラルダイニングをオープンし泊食分離を進め利用客を増やす。二次交通として鳥羽駅と相差を周遊するバスを計画している。鳥羽駅と志摩ビーチホテル・相差ダイニングを結ぶ予定。実証実験では無償で行う。ドライバーは相差町内の方を募ったが確保が難しいため、各旅館の送迎バスを利用して運行していく予定。また、相差町内を周遊するオンデマンド形式のバスも計画している。

##### ○委員

無償での実証実験のため道路運送法に抵触しないことは確認した。ただし、有償運行を見据えた実証実験であるので本格運行する場合には既存の公共交通とのすみ分けをどうするかなど、この会議の場で議論が必要である。

##### ○委員

各旅館がマイクロバスを保有して維持費も大変なことから今回の話になったかと思う。資料に相差地区で宿泊施設が50軒くらいとあるが、車両を保有している宿泊施設はもっとあるのでは。この実証実験では何台のバスで運行していく計画か。

##### ○実施事業者

実証実験では3台の予定。1便当たり2往復、全部で6便となる予定。懸念としてどれくらい利用があるか見込めない。相差の全ての旅館が参加するのではなく、実証実験では事業に賛同している6軒の宿泊施設に絞って利用可能とする。その後、様子を見ながら増やしていけたらと考えている。

##### ○委員

相差の地元のみなさんとは協議を重ねているのか。あまりにもいきなりの話かと思ったので、みんな納得しているか不安になった。これまで相差の方たちが地道にやってきた活動との整合性はとれているのか。

##### ○実施事業者

こちらは海女文化運営協議会の青年部の相差未来委員会が主導で行っている。あくまで目的は各宿が車両を保有してそれぞれが運行しているところの合理性や効率化を図りたいということから計画している。今の段階では住民の方ではなく6軒の宿泊施設の宿泊客のみが利用できるという形で進めている。

##### ○委員

一般の人が乗る、乗らないという話ではない。システムはとてもよいが、みんながこの計画に賛同しているのか。地元の人たちがコツコツとやっている誘致活動があるがそれとの整合性などが話し合いに入っていたのかが聞きたい。

##### ○実施事業者

整合性について、3軒の宿が運行管理するが今まで送迎していた時間と同じような時間帯で運行する。利用客に対して今までより利用できる便数が増えるなどの利便性向上を目的としている。町内の方と調整をしている、整合性をとっているというところは現時点でない状態である。

##### ○委員

そうすると市のバスとも調整はなしということか。市も相差方面への誘致などをやっている。そういった別のところでやっている企画との整合性などはやっていないのですね。

##### ○実施事業者

市の方に関しては定期船課、企画財政課と事前に打ち合わせしている。

##### ○会長

今の事前に話をしておりますということよりも、こういう実証実験をして後に繋げていきたいという話を聞いているということである。この話は当然、本格運行となると本会議で調整を図らないといけない。今日は今年実証実験をやろうとしている。また、それを踏まえて来年度以降どのようにしていくかを考えていこうという段階であることをこの場で紹介しているとご理解いただきたいと思います。調整等につきましては、今後の会議でさせていただくと考えています。

○委員

質問にあったことですが、町内会の役員会でこの話をして、町内の広報誌にて事業の周知を行った。今から実証実験を行い、それを踏まえて具体的なことはこれから出てくるのではないかと考えている。現段階で町内への周知は行えているという認識である。

○会長

この件に関して、それぞれの旅館がバスを維持することの効率性や経費の問題があり、セントラルダイニングについても料理人の確保などがある。これからの相違のあり方ということでもあり、この取り組み自体はとてもよい事だと思う。事業の形態によるところもありますが、整合性などの話はこれからだと思います。

○委員

運行が鳥羽駅から千鳥ヶ浜を経てダイニングまでということですが、旅館・ホテルまでは行かないのか。この種の運行は全国的に見ても少ないですが、当然旅館としては自分のところへ来てもらうための専用車であってそれがおもてなしと感ずるので、こういう取り組みに抵抗がありそれぞれでやってしまう。しかし、経費がかかるので一緒にしたいけど抜け駆けが出てしまうことが繰り返されている。好事例として鬼怒川温泉がある。きちんとまとめればうまくいくが、仕組みとして新しいものではない。認識が浸透していないため賛同が6軒なのかわからないが、効果が出れば広がっていくのかもしれないし、そうでなければうまくいかなってしまう。そういったことを考えたときに最低限旅館まで送っていくことは当たり前ではないかと思ったが、この事業はそうではないということではよかったか。

○実施事業者

本来なら各宿に送迎するのがベターだと思っている。片道 30 分かかり、さらにいろいろな宿を回っていると時間がかかってしまう。また、相違町内はマイクロバスが入れない場所が多々あるため、今回は2か所のバス停にそれぞれの宿が送迎するという形としたい。今後実証実験を進めていく中でいずれは全ての宿で乗車できるようになればと思っており、各宿で順番に送迎の担当を決めるなどして宿泊の方には無料でバスを提供できたらと考えている。

○委員

町内周遊バスええやん CAR と接続させることは考えていないか。

○実施事業者

夜に各飲食店を結ぶことを考えているので、今のところ接続させることは考えていない。17 時以降到着する便に関してはそのような使い方も検討している。

○会長

実証実験が行われ、これからいろいろな工夫がされると思う。今日のところは皆様への情報提供とさせていただきます。(実施事業者退席)

## (2) 危険なバス停について

○事務局長

資料 2 について説明。危険なバス停とはバスが停車した際、交差点または横断歩道に車体がかかるバス停等になります。10/30 に公開されたリスト内で、鳥羽市は相違町の長岡中学校前が該当した。公表を受け、委託業者である三重交通(株)、鳥羽警察署、私道であるため建設課及び定期船課で現地を確認、協議を行った。安全確保のためバス停を横断歩道から 5m 以上離れた場所へ移動させることで合意した。今後は移動先候補となる地権者の理解と協力が必要なため、地元町内会等とも連携しながらなるべく早期にバス停の移動を行い、安全確保に努めたい。

○委員

危険なところを直していくことは必要なこと。長岡中学校前ということで、先程も相違の話がありましたが、こういうところは根本的にずらすとかではなくきちんとターミナル的なものを整備することが必要になってくるのでは。ちょうど地域公共交通計画を策定する時なので、一か所集まって待つ安全に乗れるところを造ることを、お金がかかることであり本当に場所がないところもあるが、考えていかなければいけない。すぐにできないと言っている間に 5 年 10 年経ってしまうので是非考えていただきたい。すぐにできることはずらすこととかではあるが根本はそういうことである。これから、高齢者や学生などに公共交通に乗ってもらうためにはきちんと待てる場所、集えるところが必要だとわかっているので考えていただきたい。

#### 4. 協議事項

##### (1) 鳥羽市地域公共交通計画（素案）について

###### ○委員（事務局）

鳥羽市の総合計画を各課と連携しながら策定中であり、地域公共交通計画についても定期船課とともに策定してきたことから、資料3について田畑委員より説明。

###### ○委員

意見が出にくい最大の原因は絵姿がないこと。鳥羽市はどういう公共交通網にするのかがない。やることは書いてあるが、その結果何を作ろうとしているかがない。5年間今のままでやるのが本当にいいことではないのではないかということが前半部分にあり、今のままではあり得ないと思っているのにその答えがないのは問題ではないか。5年経って人口が減りさらに深刻な状況になった時には打つ手ももっと減っている。そうじゃなくて早めに手を打つといいのでは。

2050年には人口減少で7千人になり高齢化率6割という恐ろしい数字があるが、30年後のことであり計画は5年である。この5年を30年後こうしないための5年とするのか、もう30年後こうなってしまいうのでちょっとずつ店じまいする計画なのか考える必要がある。少しずつ撤退しながら、やるべきところはやらないといけないのではと思っている。この5年は今まで通りやっていくという前提と考えていいのか。もし、そうではないなら年2回の検討では足りない。あるいは、地区検討等も必要である。

###### ○委員（事務局）

全体の評価について示したのは最後の部分になります。取り組みとしては例えば定期航路ダイヤの再編がありますが、この5年間でダイヤのダウンサイズ化は必須と考えているので、年2回ではなく地域に足を頻繁に運んで相談しながら取り組んでいきたい。本土側ではかもめバスや福祉バスがあります。福祉バスの利用がない部分もありますが、かもめバスが運行していない地域であるので、バスが乗り入れできないか等の検討をしたいと定期船課と話をしていた。

###### ○委員

11/27の法改正で総動員という言葉が出てくる。総動員とは、地域にとって必要な公共交通とはこういうものだという絵姿を描いて、実際にはお金がない、人がいない、そんなにやっても乗らないということになってくる。地域にあるいろいろな担い手や車をどういう風に動員して実現していくかということ。そのためにはどういうサービスが必要かを明らかにしなければいけない。今の話だとそこが不明確で、減らしていかなければいけないのは確かだが、その時に話し合っていこうとすると暗くなってしまふ。本当に減らすことがいいのか、基準も不明確。実際に減らすとなった時に水掛け論的になってしまわないか心配。とはいっても、船の方は担い手の確保が特に難しいが、陸の方はまだ打つ手は結構あると思っている。例えば、バス運転手を見ると日本中にいっぱいいて、運転手に聞くとここにずっといてもどうにもならないと言っている。この5年間でバスを減らしていくとなったら、5年の間にどこかへ行かないといけないという気持ちになってしまう。住民や観光で利用される方が安心して利用できるバスを5年間やりきるといふ心構えを計画で打ち出す。ただし、今のまま放っておいては維持できないので、いろんなみなさんにお手伝いしていただいてやらなければいけない。そこで、お手伝いしていただきたいものを明記する必要がある。ここは最低限守っていかないといけないものを明らかにする。買い物、病院、小・中は当たり前で高校・大学に行ける、あるいは観光で鳥羽駅などに来て主な観光地にそれほど待たずに行けるように確保する。それを考えたときに5年後どれくらい足りなくなるなどの試算や、それに対してどうするかを具体的に書かないといけないと思う。そこをこれから詰めていくということではどうか。

###### ○委員（事務局）

そうである。

###### ○委員

策定は3月か。この後のスケジュールが見受けられない。策定スケジュールはどうなっているか。

###### ○事務局長

素案についてパブリックコメントを実施し、反映後、最終的な案を2月上旬に公共交通会議で協議できればと考えている。

###### ○委員

地域のみなさんがこの計画を見ても、それぞれの地域にどういった影響があるかわからない。そうする

とあまり盛り上がらないかもしれない。

○会長

この場で意見が出にくいということは、パブリックコメントでもあまり意見が出にくいことになるかと思われるので、実施までに時間は限られているが対応が必要。

○委員（事務局）

もう少し細かく砕ける部分がないかなど定期船課とともに協議して次の案を検討したい。

○会長

パブリックコメントの実施前に作成した案を委員のみなさんに見ていただくことはできるか。

○事務局長

修正した素案を委員のみなさんにメールや郵送で送付し見ていただきたい。その際に期限を設定して意見を求めたい。

○会長

とは言っても、2月上旬の開催であれば時間はあまりない。

○事務局長

12月中に修正し、1月上旬くらいからパブリックコメントを実施し取りまとめたいと考えているが、時間はない。

○会長

こんな形になればという絵姿を示せばよいが、この段階でどこまでできるかという不安がある。

○委員

コロナウイルスの関係で計画を1年遅くしようと考えている自治体がある。コロナの影響を受けて利用者が大きく減少してそれが戻ってこない。例えば大学でも最初オンライン授業をやって、今は対面授業をオンラインでも中継して併用しているが、家で見ている方が楽なのでオンラインの方が多い。そうすると、地下鉄や市バスを利用する学生が減っている。そういうのがどこまで戻ってくるのか。あとは、インバウンドがいつ頃戻るかなど、これもわからないですが、これが見えてこない新しい計画で数字的な目標設定も難しい。ただ、今やるべきことをやらないといけなくて計画の継続ではなく、目標値は暫定的であっても新しい政策を打つという意味で3月策定をやるのか、よくわからないので繰り延べるかということもあり得る。個人的には、打てる手は早く打った方がよいので、数字がわからなくても3月策定でよいと思う。具体的にわかってきてこれではだめだとなったら早期に修正しないといけないという見込みで考えないといけない。より深刻な場合は打つ手ももっと必要になってくるということを構えておかなければいけない。そういったことを計画の最後に記載しておくのはどうか。

○会長

計画自体をある意味ブラッシュアップしていくという形で作成していくということで、3月策定に向けてはできる限り努力し、策定後はブラッシュアップに繋いでいける計画としたい。今回の素案を修正し、パブリックコメントを実施しますが、ブラッシュアップの時にはまた作業がでてくるかと思いますがそういった形で進めさせていただきたいと思う。

○委員

目標のことで、法改正で定量的な目標を並べることに努めることにすると、目標は具体的に利用者数、収支、行政負担額の3つが示されている。努力義務ではあるが、目標値として盛り込んでもらいたい。例えば目標Vの定期航路の収支率は入っているが、かもめバスは入っていない。

○事務局長

かもめバスの収支率については追加を検討したいと思います。

○委員

法改正で示された定量的な目標が努力義務とされている。努力する義務であるので吟味してもらい、収支となっているので収支率でなくても構わないし、市民1人あたりの税負担としている例もある。いろいろ考えられるので、この地域に合ったものを考えていただきたい。

## （2）事業評価、（3）事業評価（第三者評価委員会提出分）について

○事務局長

資料4・資料5について説明。令和元年10月～令和2年9月の期間に鳥羽市地域公共交通網形成計画に基づいて実施された事業についての評価様式となる。

○委員

委員からも計画の目標について話がありましたが、定期船に関して中之郷が減便になった。かもめバスと連携している中で将来的に中之郷の基地を廃止するのか。旧定期船棧橋やマリナーターミナルにも使用していないポンツーンが2基あるが利用できないか。5か年計画で将来的に中之郷は基地を廃止してかもめバスで運行して佐田浜に基地をもってくるという計画はありますか。

○事務局長

平成23年にマリナーターミナルが完成した。それまでは中之郷が主基地であるが現在は佐田浜のマリナーターミナルが主基地となっている。委員の言う通り以前より中之郷の便数は減っています。もっと減らす案を示したが反対があり、現在の便数となった経緯である。中之郷をどうするかは委員からも同様の意見をもらっているので、今後みなさんと考えていく必要があると思っている。佐田浜の使用していない2基のポンツーンについては定期船に合っていない係船できない棧橋となっている。旧佐田浜棧橋や中之郷に係船をしている。課題ではあるので経営改善にも繋がるのでみなさんと検討していきたい。事業評価については目標に向けた事業評価を行っていますので、また別の機会にて検討、協議したいと思います。

○会長

先ほどにもあったように、経営診断や経営改善といったところで判断することが出てくると思う。人材の確保についても考えていくと、利用する人口が減少していくが、離島の住民の利便性は考えていかなければいけない。折り合いが必要な部分も出てくると思うので議論していく必要があるが、経営努力が認められないと新船の建造など認められないことが出てくるなかでやっていかなければいけない。市の財政の話もあるが、この会議や地域のみなさんと協議しながらよい方法を探していきたい。経営できないという状況になってしまえばはいけないうご協力をお願いしたい。

○委員

中之郷については、かもめバスとの乗り継ぎも認知されてきている。もし、中之郷を減らしていくことが経営改善や持続可能性に資するということであれば考えていかなければいけない。本当は今回の計画で考えるべきだが、時間がかかることであるので、計画ではそこまで書かないが、議論して決まれば改定していくのがいいのではないか。

資料4のように評価するということが地域公共交通計画に書かれていない。こういう評価をするということを最後のページに12~1月にこういう項目でやるということを書いてほしい。今は計画があるないに関わらず資料4を提出することで補助金をもらえるが、法改正で何年かのうちに地域公共交通計画補助要件化が見込まれている。そのときに補助を受けることについてはこのように評価するということが書いていないといけない。以前から言っていることだが、補助路線ではないもののそれに準ずる評価をしてほしい。例えば三重交通の伊勢へ行く路線の利用者数を出してもらったり、CANばすについてもモニタリングを行う。あるいは、市内の駅の利用者数。近鉄さん JRさんに入ってもらったのでこれまで見ていないがやっていきましょう。タクシーの台数など評価指標が今回増やしてはどうか。コロナで減ったのと、人口減少で減ったもの、単純に不便だから減ったのと3種類がある。コロナであっても利用者数が増えているところがあり、そういうところは出かせないとどうしてもなく利用者数が増えている。観光客が減った分利用が減るが、地域だけを見ると人口減少に比べて減りが少ないところがあるはず。そこまで見るとこの路線は地域には見放されつつあるというところと、地域が必要だと思っているけどコロナの分だけ減ったものに分かれてくる。できればそれを見極めてほしい。人口に比べて減りが大きいのか、少ないのかでできれば見てほしい。離島航路はその要素がある。人口減少は定期船課の努力ではどうすることもできない。

離島航路の資料4-2について、網形成計画に基づいて運行していることをもっと肉付けして書いてほしい。

○会長

どこまでがコロナウイルスの影響かなどの見極めは、分析しようとしてもなかなか難しいところがありますが、とくに離島航路に関してもしも離島でコロナウイルスが広まったらと移動に制約がかかっていたかと思えます。そのあたりについてどうですか。

○委員

この2,3週間観光客は増えている。町内を歩いていたり、旅館のバスで案内しているのを見かける。GOTOの成果が出ていると実感している。島民も旅館の努力を知っているので、コロナを持ってきたらど

うするという声はあまり聞かれない。盆や正月の帰省は自粛する傾向となっている。定期船の利用者数の減少はコロナの影響が大きく出ていると思う。

別件ではあるが、答志島3町で離島架橋の協議会を立ち上げ、推進をしている。これまでの取り組みから視点を変えて取り組もうとしている。定期船の取り組みともこれから先はリンクしないといけないと思っている。企画財政課も絡んでもらっているので言及していただける計画にしてもらえたらと思う。

今日の資料では意見を言いにくいので今回の計画について、こういう風に運航したい、これくらい減便したいなどが出てくると住民代表として意見を言える。

○事務局長

いろいろなことを進めていく上で、町内会等と協議しながら進めていきたい。

○会長

ゴールデンウィーク、お盆と住民のみなさんからいち早く帰省等移動の自粛を発信されて島内で感染が広がらないように努力されていた。コロナの影響はあったかと思う。定期船については主に利用されている地域のみなさんと話し合いながらやっていきたいと思っている。

事業評価について、いただいた意見をもとに修正したうえで中部運輸局へ提出したいと思います。ご承認いただける方は挙手をお願いします。(挙手全員) 承認ありがとうございました。

## 5. その他

バス停名の変更について(鳥羽消防署前⇒落口)

代替船舶建造について

公共交通を利用した高校生発想の旅行企画について

○事務局長

その他3件について説明。

○委員

高校生発想の企画について、一緒に作ってきたが非常によい内容となっている。是非、いろいろところで紹介していただきたい。まだ、伊勢や鳥羽はコロナが出ていないのでお客さんに安心して来てもらえると思う。

○会長

ありがとうございます。是非活用していきたいと思います。地域公共交通計画を策定するこの年にちょうどコロナがあり、なかなかうまくいかなかったと反省しきりです。今年できる限りのことをやりながら、ブラッシュアップしていきたい。また、みなさんからいろいろな協力をいただきながらやっていきたい。

○委員

高校生が作った企画ですが、例えばYouTubeでダイジェストなどできないか。

○事務局長

学校側と相談してみます。

○委員

ただパンフレットだけよりもいいと思います。

## 6. 閉会

○立花会長

令和2年度第1回鳥羽市地域公共交通会議全体会の議事については全て終了しました。